



草原にドライバーたちが捨てたウォッカの空きビンでいっぱいの車両進入禁止の標識(2016年) ©Injinaash, Bor



ノミン・デパート(旧国立デパート)にて(2021年) ©Injinaash, Bor

写真家B・インジナーシが見た首都ウランバートル社会の断面

都市化が進む現代モンゴル

2023.11.11(土) → 2024.4.23(火)

午前9時半～午後5時(但し入館は午後4時半まで)



公式H・P



Facebook



インスタグラム



豊岡市立 日本・モンゴル民族博物館

休館日:水曜日(但し 祝日の場合はその翌日)

年末・年始(12/27~1/4)

入館料:一般500円・高大生300円・小中生250円

※身体障がい者手帳等をお持ちの方は半額

※県内の小中学生はコロナカード提示で無料

◆監修:島村一平(国立民族学博物館教授)

◆写真提供:B.インジナーシ(ドキュメンタリー写真家)

◆後援:朝日新聞社豊岡支局・神戸新聞社・産経新聞社神戸総局・
毎日新聞豊岡支局・読売新聞豊岡支局・新日本海新聞社・
一般財団法人 兵庫県学校厚生会・FMジャングル76.4MHz・
但東シルクロード観光協会

都市化が進む現代モンゴル

～写真家B.インジナーシが見た首都ウランバートル社会の断面～

多くの日本人が抱くモンゴルのイメージは、遊牧民がヒツジやヤギなどの家畜を飼いながらゆったりと暮らしている「草原の国」かもしれません。

しかしモンゴル国の首都ウランバートルは、総人口およそ350万人のうち、半数の約160万人が集住する巨大都市です。経済成長を背景に急速に都市化が進む首都の中心部には、高層ビルやホテルなどが多数立ち並び、華やかな都市文化を目にすることができます。

一方、首都の周縁部には、伝統的な遊牧民の移動式住居ゲルが密集する「ゲル地区」が広がり、貧富の格差や草原の鉱山開発による環境汚染が懸念されるなど、経済成長をもたらした負の側面もあらわになっています。

ドキュメンタリー写真家B.インジナーシの眼を通して、変貌する首都とその周辺に暮らす人々の生活や息づかいを伝えるとともに、近年流行するヒップホップを通して社会を見つめる若者たちの新しい文化を映像で紹介します。



ダリガンガ郡(モンゴル東部・スフバートル県)の若者たち(2016年) ©Injinaash, Bor



ヒップホップのライブで観客と触れ合うラッパーDesant(2016年) ©Injinaash, Bor



年末年始にノミン・デパートの前で物乞いをする少年(2015年) ©Injinaash, Bor

【関連イベント】

☆TBS日曜劇場「VIVANT」で話題沸騰の現代モンゴルの姿☆

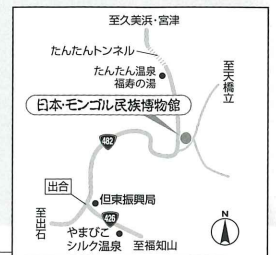
|ギ|ャ|ラ|リ|ー|ト|ー|ク|

「ヒップホップから見る現代モンゴルの社会」

11月26日(日) 13:30~15:00

講師:島村一平氏(国立民族学博物館教授)

定員:先着30名(要予約、入館料が必要)



豊岡市立 日本・モンゴル民族博物館

〒668-0345 兵庫県豊岡市但東町中山711

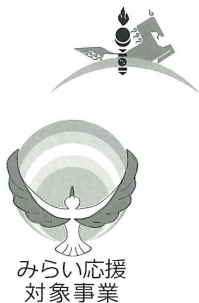
TEL.0796-56-1000 / FAX.0796-56-1022

http://www3.city.toyooka.lg.jp/monpaku/

monpaku@city.toyooka.lg.jp



参加事業



みらい応援
対象事業